

各 位

2024年12月20日
株式会社リットーミュージック

迷えるアコギ弾きの“困った!”を自身で解決 演奏・理論、メンテ、SNS 戦略など、すべてを1冊に収めたアコギ百科事典『アコースティック・ギターの全知識』が発売!



インプレスグループで音楽関連のメディア事業を手掛ける株式会社リットーミュージック（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：松本大輔）は、『アコースティック・ギターの全知識』を、2024年12月20日に発売します。

アコースティック・ギターは、覚えることが非常に多い楽器です。しかも、弾き語りなど、ひとりで活動することが多いため、自身で解決しなければならないことが数多くあります。そこで、役立つのが本書です。本書は、アコースティック・ギタリストに必要な不可欠な情報を全網羅しています。

本書で取り扱う内容は、ギターの構造、演奏面、コード&理論、メンテ、プロモーション方法などなど。数冊分の教本の内容を1冊に網羅しています。コスパ、タイパが重視され

る近年の価値観に沿って制作されたのが本書です。「アコギ演奏者のお悩み解決本」として、ぜひお手元に！

Chapter 1 アコースティック・ギターの構造を知らう

03 ボディ構造

フラットトップとアーチトップ

大抵のアコースティック・ギターのトップは平らになっているが、中にはバイオリンのように膨らんだものもある。平らなタイプは**フラットトップ**、大きく盛り上がったタイプは**アーチトップ**と呼ばれる。ボディ・バックも大抵は平らだが、中には少しだけ膨らんだものもあり、これは**ラウンドバック**と呼ばれる。ラウンドバックは、ボディ内の音の跳ね返りが複雑になるからか、フラットなものに比べると、やや広がりのある響きに感じられる。

※実際に上からの圧力に耐えるためと、音を速くに飛ばすため、ほんの少しだけ盛り上げている。

ネックとボディのジョイント位置

ギターのカタログなどに見られる**12フレット・ジョイント**、**14フレット・ジョイント**といった表記は、ボディとネックのジョイント位置を表わしている。12フレット・ジョイントのモデルは、12フレットの位置でネックが接合されている（ボディ上端のラインと12フレットの位置が同じになっている）。スティール弦のアコースティック・ギターでは、ハイ・ポジション[®]の活用のしやすさなどから、14フレット・ジョイントが主流だが、12フレット・ジョイント特有の太くて柔らかいサウンドにも人気がある。クラシック・ギターは12フレット・ジョイントが一般的だ。

※ボディ響りの高めめのフレット・ポジションのこと。

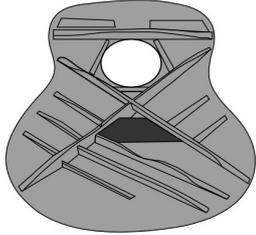
アコースティック・ギターの全知識

・テキストのみの場合のMAX

ブレイシング

ボディ内にはボディを補強するための木が骨組みのようにして張られている。これは**ブレイシング（力木）**と呼ばれるもので、このブレイシングをどのように配置するかによって音の特性が変わってくる。中には**スキャロップド・ブレイシング**と呼ばれるものがあり、これはボディ・トップのブレイシング表面を少しだけ削ったもの。こうすることでブレイシングの強度が下がり、その分、トップの鳴りが向上するという仕組みだ。ただし、補強面から見るとマイナスになるので、スキャロップド・ブレイシングのギターは、より楽器の取り扱いに気を配る必要がある。

03-1 トップ裏のブレイシング



12
13

Chapter 3 アコースティック・ギターの弾き方について

08 グループを生み出す 右手のテクニク

ブリッジ・ミュートとブラッシング

ブリッジ・ミュートとは右手の手のひらの側面をブリッジ付近の低音側に乗せて弾くテクニクのこと（**08-1**）。低音弦の響きを抑える効果があり、サウンドに締まりを与えたい時に使用する。この時、右手を弦に押しつけてしまうのではなく、軽く乗せるくらいにするのがポイント。その乗せ具合によってミュートの加減をコントロールする。**ブラッシング**とは左手でミュートした弦をストロークすることによって、パーカッシブ音を出すテクニク。生き生きとしたリズムワークに仕立てるには、ブリッジ・ミュートやブラッシング、休符を織り交ぜながら弾くといふ。

ブリッジ・ミュートとブラッシングの譜面表記

ブリッジ・ミュートはフォームとの関係からダウン・ピッキングが主体となる。ブリッジ・ミュートを譜面に指定する場合、Mute、M、もしくはスタックート（・）の記号が付けられる。ブラッシングはX印で表記され、リズム的なバックギタやキメでよく使われる（**08-2**）。

アコースティック・ギターの全知識

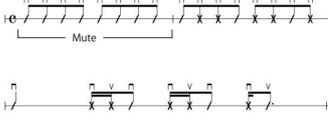
両手のコンビネーションでリズムを作る

演奏のグループは右手のピッキングやストロークだけで作られるものではない。左手による押弦の力加減と、右手の動きを組み合わせることで生み出していく。両手によるコンビネーションがポイントだ。ストロークはある程度の音量を出さないと練習にならないので、ときには練習スタジオで個人練習してみるのもいい。

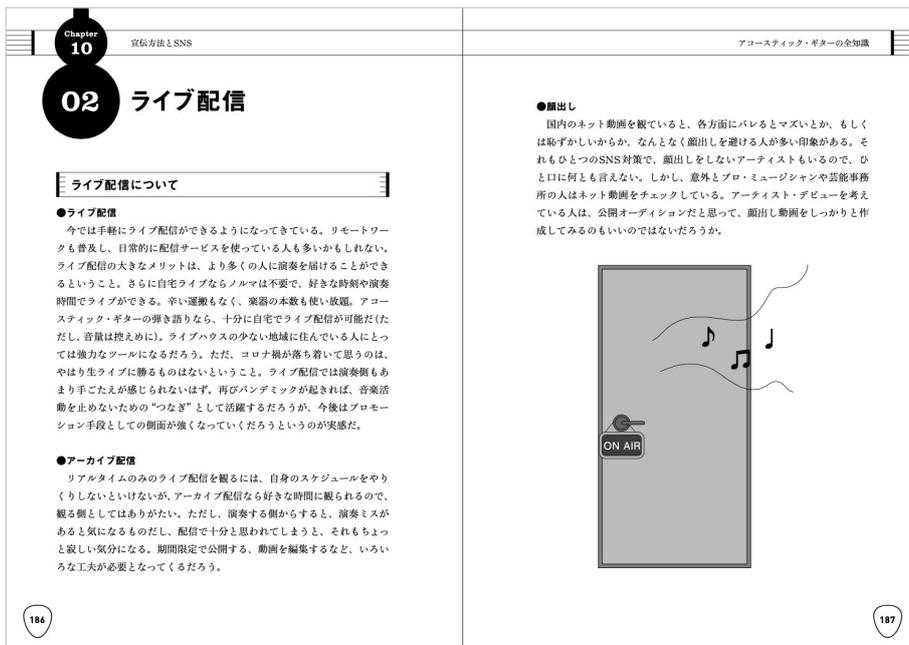
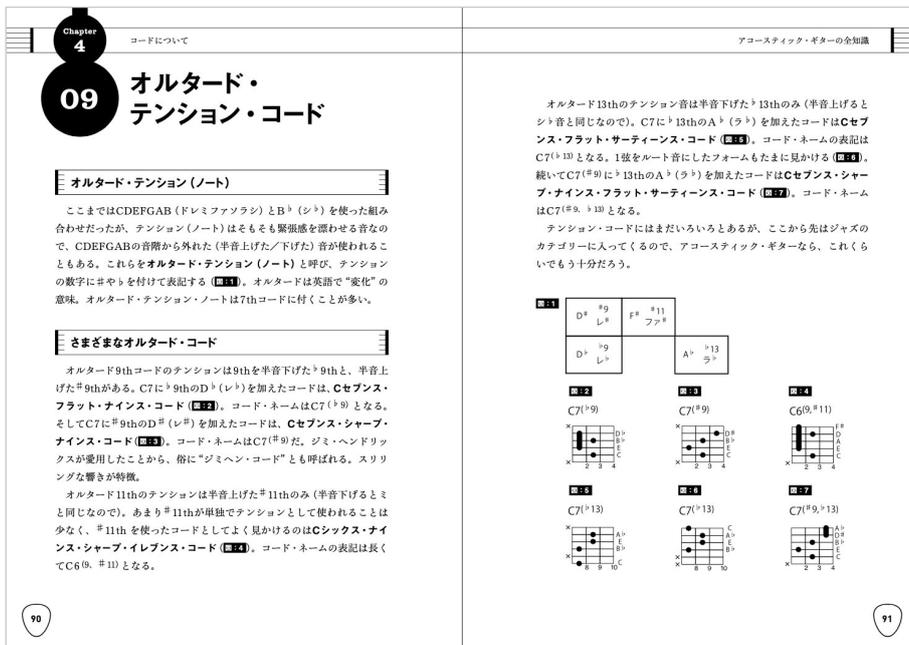
08-1



08-2 ブリッジ・ミュートやブラッシングの例



66
67



■ 書誌情報

書名：アコースティック・ギターの全知識

著者：関口 真一郎

定価：2,420 円（本体 2,200 円+税 10%）

発売：2024 年 12 月 20 日

発行：リットーミュージック

商品情報ページ <https://www.rittor-music.co.jp/product/detail/3124317117/>

CONTENTS

第 1 章 アコースティック・ギターの構造について知ろう

第 2 章 ギターを弾く前に

- 第3章 アコースティック・ギターの弾き方について
- 第4章 コードについて
- 第5章 コード進行について
- 第6章 リズムについて
- 第7章 技術力アップと練習への取り組み
- 第8章 ギター・メンテナンスとリペア
- 第9章 ライブやレコーディングについて
- 第10章 宣伝方法と SNS

PROFILE

関口真一郎(せきぐち・しんいちろう)

1970 年生まれ。早稲田大学社会科学部卒業後、アン・ミュージック・スクールで ギターマスター・コースを専攻。リットーミュージック『ギター・マガジン』編集部、出版部を経て、フリーランスの編集ライターに。『ギター・マガジン』、『アコースティック・ギター・マガジン』、『ウクレレ・マガジン』での取材・執筆・レビューのほか、各種ムックの制作、楽譜作成・校正なども手がける。国内外の著名ギタリスト、楽器業界人への取材経験多数。著書に『ウクレレでコードがスラスラ押さえられるようになる本』、『ギターでコードがスラスラ押さえられるようになる本』(以上、リットーミュージック刊)などがある。

【株式会社リットーミュージック】 <https://www.rittor-music.co.jp/>

『ギター・マガジン』『サウンド&レコーディング・マガジン』等の楽器演奏や音楽制作を行うプレイヤー&クリエイター向け専門雑誌、楽器教則本等の出版に加え、電子出版、映像・音源の配信等、音楽関連のメディア&コンテンツ事業を展開しています。新しく誕生した多目的スペース「御茶ノ水 RITTOR BASE」の運営のほか、国内最大級の楽器マーケットプレイス『デジマート』やTシャツのオンデマンド販売サイト『T-OD』等の Web サービスも人気です。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証スタンダード市場 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック 広報担当

E-mail: pr@rittor-music.co.jp